

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		LEIF郡山		記入日		2025年 3月 12日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		7	0
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6	1	職員間で休みが重ならないように配慮しながらシフトを組んでいる。	突発的な体調不良や育児による欠勤時に、職員が少なくなる。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	0	掲示物によるスケジュールの見える化、荷物を置く場所の工夫をしている。	バリアフリーに対する設備がないため今後検討していく。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		7	0	毎日療育後に、職員で分担し清掃と消毒を実施している。	ドアや冷暖房等の設備における日常点検を実施して快適に過ごしてもらえる環境をつくっていく。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6	1	カーテンや職員室の活用をすることで、個別の空間をつくるための配慮をしている。	完全な個室を設定することが難しいため、音や声が聞えたり漏れたりする。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		7	0	業務の役割分担を行い、誰がどんな業務を行っていくのかを明確にしている。	適宜ミーティングや会議を実施しているが、学校の長期休暇期間などは時間の確保が難しい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		7	0	保護者の方々からのご意見を職員間で共有し、改善につなげている。	いただいたご意見を改善するまでのスピード感を早めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		7	0	毎日終礼の時間を設けて、改善につなげている。	休日の職員や終礼に参加できなかった職員への伝達方法を改善していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		0	7	他事業所との連携はあるが、外部評価までは行っていない。	社内での評価は実施できている。今後について、第三者機関からの外部評価を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		7	0	毎月の必須研修を受けることができている。自治体が主催している研修会への参加機会をつくっている。	希望する職員が平等に研修を受けられるよう、職員体制の充実を図っていく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		7	0	HPに記載している。	実施しながら改善をしていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		7	0	定期的に面談を実施し、保護者や児童のニーズを踏まえた計画作成をしている。	面談には保護者のみの場合が多いため、可能な範囲で児童の同席を依頼し、直接的な声を計画に反映させていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		7	0	児発管から面談の共有をする機会、その内容を踏まえて職員で話し合いをする機会をつくっている。	職員によって支援における知識や経験が異なるため、発言する職員が偏っている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		7	0	書面だけではなく、ドライブを活用することでタイムリーに共有することができている。	月1回のモニタリング時の確認以外にも、計画書を確認する機会をつくっていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		7	0	所定のフォームと日々の記録を基に、アセスメントを実施している。	職員によって記載内容(量・質)が異なるため、全職員が観察力や多角的な視点を養っていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		7	0	各項目の狙いを踏まえて支援を設定している。	月1回のモニタリング、半年1回の面談以外にも児童や家庭の状況の変化等があれば支援方法を見直ししていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		7	0	月1回サッカー療育における内容や目標の共有を実施している。サッカー療育以外のプログラムについても、月1回療育案のミーティングを実施している。	プログラムが固定化され過ぎないように配慮していく。

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	長期休暇や祝日、土曜日の活動プログラムにはサッカー以外の活動を実施して固定化しないよう配慮している。	平日のプログラムについても、サッカー以外の活動実施も検討している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	関係機関へ必要な情報の共有を行っている。	こちらからの働きかけの機会を増やしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	該当者なし、準備を並行して進めていく。	これまで該当者がいないため、今後該当者が出た場合は進学・就労支援を関係各所と連携していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	7	これまで実施できていない。	より専門的な知識を持った方からの学びの機会を作っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	公共施設を活用して活動することが多いため、そこで触れ合う機会がある。	プログラムとしてその視点を取り入れた療育の実現をはかっていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	0	年3回の連絡会への参加ができています。	事例発表会や勉強会の機会にも積極的に参加し交流をはかっていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	療育における変化や様子について送迎時に共有をしている。その他、電話やLINEを用いて情報共有をしている。	内容によっては、送迎時では時間が限られるため、計画の見直しの面談とは別で面談や相談できる機会をつくっていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	これまで研修としては実施できていない。送迎や面談時に受けた相談については、その場で支援方法の提案や助言を行っている。	研修という形での機会を検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に丁寧に伝えるよう心がけている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6	これまで実施できていない。	今後開催できるよう準備を進めていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	管理者を窓口として迅速に対応できるようにしている。	職員間での共有の際に、全職員が同じ認識を持って同じことを繰り返さないよう体制を構築していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	4		配信が不定期になっているため、体制(担当者の選定)を構築して改善をしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	会社全体で徹底して取り組んでいる。	引き続き個人情報の取扱いについて第三者機関からのチェックと合わせて強化していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	それぞれの特性を理解し、配慮している。	感情や言葉の表出の助けとなるツールの充実をはかっていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	実施出来ていない。	今後交流の機会が持てるように意見交換し、検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	避難・防災訓練を年に1回(1週間)行い、より多くの通所者様が安全の理解が深まる様に活動している	マニュアルを保護者の方によりご理解頂けるように周知方法を向上する意見交換を行う
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	避難・防災訓練を年に1回(1週間)行い、より多くの通所者様が安全の理解が深まる様に活動している	業務継続計画を作成するだけでなく、地域への確認をより深めながら質を向上させていく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	基本情報シートや連絡帳などを活用し、服薬や持病の状況を把握している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	半年1回の面談時に基本情報について再度ヒアリングする機会をつくっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	月1回研修や訓練を行うことができています。	e-learningを活用していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハット事例があった際に報告書を作成し、その内容について定期的に職員で共有している。	全職員がその内容を理解し、再発防止につなげていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	全社として研修機会を設けている。	e-learningを活用していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	全社として研修機会を設けている。	e-learningを活用していく。	